

# 1月例会は「西の魔女が死んだ」

## 2008年を振り返って、映画10選

### 新年おめでとうございます

昨年のはじめは、一昨年から続く映画の活況に引っ張られるように、大きな映画館では観る機会の少ないオモシロい作品を上映し、会員数も210人を超え順調なときでした。

ところが、大阪や神戸に出かけても観たい作品が少なくなってきたなあと感じはじめた4月頃から、引きずり込まれるように会員数の減少が続き160人を割ってしまい、現在では、会の運営に支障が出てきそうな状況です。

昨年最後の行事である12月18日の「歓喜の歌」上映会は、作品内容もゲストトークも良かったのに、来場者が少なく残念でした。

新年を迎え、ちょうど良い機会ですので、気分だけでも明るく転換しておきましょう。

また、世間でも、暗いニュースが多いように感じますが、2008年を振り返って映画作品を並べて探してみると、目立ってはいないが新しいキャストやスタッフによる挑戦的なものや、よくできた脚本のものもあり、意外と明るいのです。あまり映画館に足を運ばなかった自身を反省しなければいけない気分にもなってきます。

年末年始の深夜にテレビで放映された映画はなかなかおもしろかった。映画館によく足を運んでいたときのものが多かったこともある。

映画館でもビデオでも良いから、じっくりと多くの作品を観て、感性や知識を豊かにしておきましょう。

### 例会のお知らせ



名称 / 第40回例会「西の魔女が死んだ」

日時 / 2008年1月23日(金) PM2:00~、PM4:20~、PM6:40~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の

「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

タイトル / 西の魔女が死んだ

監督 / 長崎俊一

原作 / 梨木香歩

出演 / サチ・パーカー、高橋真悠、りょう、大森南朋、高橋克実、木村祐一

データ / 2008年、日本、1時間55分、16mm

ジャンル / ドラマ、ヒューマン

解説 / 中学に進んでまもない夏の初めに、学校へ行けなくなったまいは、森で暮らす「西の魔女」のもとで過ごすことになった。

西の魔女とはまいのママのママ、大好きなおばあちゃんから、「早寝早起き、食事をしっかりとって、よく運動すること」が、どんなに大事かを教わる。まいは戸惑いながらも、料理、掃除、洗濯、庭づくり・・・と、日々励んでいくが、実はその生活は、魔女修行の始まりだった。

主役のおばあちゃんにサチ・パーカー。幼少時代を日本で暮らした経験を持つアメリカ人である彼女の清らかな日本語と、全身から溢れ出る温かさが、作品を優しさで包み込む。少女まいには新人の高橋真悠。まいのママに女優りょう。パパに大森南朋、郵便屋さんに高橋克実、ゲンジさん役に木村祐一。ユニークでバラエティに富んだキャスト。監督は「誘惑者」、「8月のクリスマス」の長崎俊一。

余計なことかもしれないが、サチ・パーカーは、「愛と追憶の日々」などでアカデミー主演女優賞となったシャーリー・マクレーンの娘である。

### 忘年会で選んだ2008年映画10選

12月18日、「歓喜の歌」上映会の後、李鳳宇さんと喫茶店で歓談しお見送りした後に、JR加古川駅前の轟屋加古川店で、年末恒例の忘年会を開催しました。やや少ない110名の参加でしたが、それぞれの近況とともに、5月例会の作品選定と2008年の映画ランキングを決めるなど楽しい時間を過ごしました。

映画ランキングは、日本映画約20本、外国映画約30本の候補からランキングしていきました。近年は、日本映画が豊作でしたが、今年は、アメリカ映画のヒューマンドラマに秀作が多かったという特徴があります。

日本映画は、基順作として「おくりびと」からはじまり、その前後に各自の推薦作品が並びました。「崖の上のポニ

ヨ」は推す人がなく選外、筆者が推した娯楽映画の「僕の彼女はサイボーグ」と「銀色のシーズン」は、相手にされずこれも選外、そして、山田洋次監督と吉永小百合主演の「母べえ」が、貫禄で1位の栄光を早々に決めてしまいました。また、娯楽映画を選ばない面々が、「容疑者Xの献身」を他の秀作と同格に認めたことは今年の特徴といえます。

洋画は秀作が並び、「インディ・ジョーンズ/クリスタル・スカルの王国」や「ハムナプトラ3 呪われた皇帝の秘宝」などの娯楽映画は、まったく相手にされず、そして、上位9位まではいずれも秀作として接戦でした。

ということで、円満にランキングが決定しました。

このランキングを「忘年会で選んだ2008年映画10選」として紹介します。いろんなご意見もあると思いますが、なかなか含蓄のあるラインナップです。

#### 【邦画の部】

1位「母べえ」(監督/山田洋次、/吉永小百合)、2位「歩いても 歩いても」(監督/是枝裕和、主演/阿部寛)、3位「歓喜の歌」(監督/松岡錠司、主演/小林薫)、4位「闇の子供たち」(監督/阪本順治、/江口洋介)、5位「おくりびと」(監督/滝田洋二郎、主演/本木雅弘)、6位「容疑者Xの献身」(監督/西谷弘、主演/福山雅治)、7位「花はどこへいった」(監督・撮影/坂田雅子)、8位「百万円と苦虫女」(監督/タナダユキ、主演/蒼井優)、9位「西の魔女が死んだ」(監督/長崎俊一、主演/サチ・パーカー)、10位タイ「ザ・マジックアワー」(監督/三谷幸喜、主演/佐藤浩市)、10位タイ「靖国 YASUKUNI」(監督/李纓)

#### 【洋画の部】

1位「この自由な世界で」(イギリス/イタリア/ドイツ/スペイン、監督/ケン・ローチ、主演/カーston・ウェアリング)、2位「ぜんぶ、フィデルのせい」(イタリア/フランス、監督/ジュリー・ガヴラス、主演/ニナ・ケルヴェル)、3位「幻影師アイゼンハイム」(アメリカ/チェコ、監督/ニール・バーガー、主演/エドワード・ノートン)、4位「サラエボの花」(ボスニア・ヘルツェゴヴィナ/オーストリア/ドイツ/クロアチア、監督/ヤスミラ・ジュパニッチ、主演/ミリヤナ・カラノヴィッチ)、5位「ノーカントリー」(アメリカ、監督/ジョエル・コーエン、イーサン・コーエン、主演/トミー・リー・ジョーンズ)、6位「大いなる陰謀」(アメリカ、監督・主演/ロバート・レッドフォード)、7位「12人の怒れる男」(ロシア、監督/ニキータ・ミハルコフ、主演/セルゲイ・マコヴェツキー)、8位「迷子の警察音楽隊」(イスラエル/フランス、監督/エラン・コリリン、主演/サッソン・ガーベイ)、9位「私がクマにキレた理由(わけ)」(アメリカ、監督/シャリ・スプリングー・バーマン、ロバート・プルチャーニ、主演/スカーレット・ヨハンソン)、10位「アース」(ドイツ/イギリス、監督/アラステア・フォザーギル、マーク・リンフィールド)

### 前回例会の報告

11月20日の例会では、チリに住む9歳の少女の視点を通して、共産主義の拡大で世界が揺れていた1970年代の政治や社会のようすを少しコミカルに描いた「ぜんぶフィデルのせい」鑑賞しました。急激な生活の変化が、すべて「革命家フィデル・カストロのせいだ」と考える少女アンナが、少しずつ社会と自由の仕組みを理解し成長していった。

参加者からの意見では、「作品は良いものの時代背景をあまり知らないのだからにくいところがあった。」というものが複数ありました。

主題もキャストも良くおもしろかった。現代の日本の子どもたちにも、ゲームだけでなく社会のことも少しは見つけて欲しいと感じる年末年始でした。

参加会員107人。良い作品なのに参加者が少なかったのは残念でした。

### 「歓喜の歌」上映会の報告

12月18日に、映画文化の普及を目的に「歓喜の歌」映画上映会を実施しました。この上映会には、映画プロデューサーでシネカノン代表の李鳳宇さんをゲストにお招きし、「歓喜の歌」や「パッチギ！」などを中心に、映画制作に込めた思いを語っていただきました。



終了後は、東加古川の喫茶店明日香で、1時間余り李鳳宇さんを囲んで交流会を行い、映画製作現場の苦労や裏話を教えていただきました。東京から加古川まで日帰りでごんぼ返りとなった李鳳宇さんには深く感謝いたします。

内容は、かなり良かったのですが、入場者約300人、ゲストトークは約50人の聴衆と、期待の約半数でした。

この事業は、平成20年度日本映画上映支援事業として、文化庁の支援を受けて実施したものでした。

まだ、詳しい報告内容は整理中ですが、4月の総会で報告予定です。

### ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

**加古川シネマクラブ** 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 160人(11月20日現在)